

少年團の設立を志す方々へ

(日本聯盟の唱へる健兒教育の外廓)

華頂青年健兒團 高 橋 良 和

日曜學校が行詰つてゐると云ふ。然し徒らに行詰れる事を口にするのみで何等打開策を講じようとはしない。

教材の缺乏、分級制度の困難、高學年兒童の統制、と數へてくればきりが無いが然しこれとても別に今更事新らしく述べるものでなくして、すでにその經營に當れる人々が口にしつゝ放任して來た。私は今その經營に直面するに當り、如何にしてこの困難を乗り切るか、要は經營者自身の熱と用意の不足がもたらす事であるが、それによつては分級制度教材の不足は或は補ふ事が出来るかもしれないがさしづめ困る事は校友の統制である。

小學校時代續けて出席した子供が高等科に入り、中等學校に入ると全然日校に出席しなくなる。青年會を組織し、校友會を設備しても指導の仕方がこれ等青少年たちの氣持に合はない爲に出席者が少なくなつて行く。云はゞ一番社會に染まり易い危險期の少年を等閑視してゐるのである。日校は他人から強ひられ、或は社會に對する面目上位置を保つものでなくして何處迄も宗教々育を施す所である事を度外視してはその生命はない。

こゝに視點を於て少年團を研究して欲しいのである。少年團のもつ訓練方法が如何に如上の欠陥を補ふものであるか今私はこれ等の意味を以て少年團を設立せんとする方々にその外廓を述べて見よう。

組織――

幼年健兒 満八歳から十二歳迄

少年健兒 満十一歳以上十八歳迄

青年健兒 満十七歳以上

幼年健兒は六名以内で「組」を作り數組を以て「隊」とし隊には隊長、副長を置き「組」に組長、次長を置く。

少年健兒は八名以内で「班」を作り、幼年健兒と同様に隊を組織し、隊長、副長を置いて班に班長次長を定める。

青年健兒は班の人数は確定せず青年を以て一隊を作り或は班も作つてもよい。

訓練方法――

どの子供も同じである。彼等は常に集團的意識を持つてゐる。集れば必ず遊びが生じなければならない。この心理を利用して大人が子供のよき遊び相手として自然の中に規律と訓練とをして行かうとするのである。因習によつて自然と遠ざかりがちな學校教育と反して野外を主とし實踐を第一とする所にスカウトは第一特色を持つ。

A 健兒作業

健兒教育は健兒の活動を中心として行はるべきである。彼等の筋肉を通じて彼等の欲求によつて、努力し工夫し創造する事に意を用ひなければならぬ。

少年團が本當に訓練されるのは野外生活である。彼等は週末にはハイキングを行ひ或は野營し刻苦艱難に耐へる事以外に大自然の中に一つの新しい生活環境を作り出す事にとめる。子供達に最も慕はしい土水火の惠澤を文明の

光のみつる所で味ひ絶へずそまりがちな子供の心を文明の風から精神的に原始生活にひきもどすのである。この大自然の懷にいだかれた生活をして行く時そこに神を感じ佛の偉大さを信じ更にすゝんでは愛國心の養成につとめるのである。

健兒は自發的活動を尊ぶ、又自發的活動に俟つべき作業を用意してゐる。この作業をなす事が一つのゲームである。こゝに共同の精神と共同作業が成立するのである。

B 閑時作業

學校で學び、家事の手傳をなし、豫習をする子供達でも彼等にのみあたへられた自由な時間を持つてゐる。この時間が彼等を都會の塵にまみれやすい時間である。健兒教育はこの時間を最も有意義に使ふべく閑時作業がある。即ち農、工、商、技藝、あらゆる方面に彼等の興味ある勞作を充てるのである。

C 奉仕作業

健兒は奉仕をその第一とする。他人から強ひられた奉仕でなしに自發的に行はるべきもので、この奉仕の精神がまづこの健兒作業を完成してくれる。報酬なしでは働かないと云ふが如き、報酬を期待するものでは斷じてない。賣名的に奉仕作業を強ひる如きは健育教育の神聖をけがすものである。

D 遊 戲

健兒作業の總てが遊戲であるが、尙この外に興味を目的として閑時になすゲームを遊戲と云ひ、ゲームの中には踊、劇、街頭で子供が遊ぶ遊戲、自轉車、乗馬、手工、音樂、等みな遊戲にふくまれるべきもので指導者は總ての遊戲に

通ずる事は不可能であるから技術上の指導をなす外に、その精神的態度について幼長の差を考慮し、道徳的に正義の觀念を與へる事に留意しなければならぬ。

進級制度と特技章制度——

幼年及少年健兒は彼等の能力と實蹟とによつて漸次進級する。即、假入團、見習健兒、二級健兒、一級健兒、準健兒と上級にすゝんで行く。それには一定の作業をなし考查をうけた者が進級するので、考查の内容も學校で行はふが如き短時間に秘密の問題を與へるが如きものではなくて、きわめて自然で實際上の問題をもつて、全國各健兒共通の公開考查である。進級者にはその證として一定の徽章を佩用せしめる。

進級制度は健兒の諸技能を修得さすものであるが、この外に健兒個々に趣味と特性を伸ばすものに幼年健兒に十二少年健兒に六十五の技能に關した特技章制度がある。一種の個性教育とも見られ、もつと大きく見るならば未來に於ける職業指導のヒントとなるものであらう。

この特技章によつて健兒は發奮し、閑時を善用して自己の天分を發揮する事につとめる。

以上は日本聯盟の稱へる所の健兒教育法であるが、この健兒教育の目標とする所は即ち宣誓と掟である。この目標に達する爲に前述の教育方法が

人格——觀察工夫、自己信頼

技能——餘技の練習

健康——衛生に注意し健康の増進をはかる

奉仕——國家社會に對する奉仕善行を獎勵する

の四方面を強調するのである。

今少年健兒の宣誓おきてをのべるならば

宣言——私は神聖なる信仰に基き名譽にかけて次の三條を誓ひます。

一、神明を尊び、皇室を敬ひます。

二、人の爲、世の爲、國の爲に盡します。

三、少年團のおきてを完ります。

おきて——一、健兒は忠孝を勵む。

三、健兒は有爲世を益することを務とする。

五、健兒は常に親切動植物を愛する。

七、健兒は快活、笑つて困難に當る。

九、健兒は勤儉、質素である。

二、健兒は公明正大、名節を生命とする。

四、健兒は互に兄弟總ての人を友とする。

六、健兒は長上に信賴し團各長に服従する。

八、健兒は恭謙、禮儀正しい。

十、健兒は心身共に清い。

である。

以上で少年團の訓練の外廓をのべ終つたが少年團は平和の斥候である。斥候は何時でも本隊より一步先に出で、本隊との連絡とその安全をはからなければならぬと同様に世の中の人より一步先に出で、と教へてゐる。かくして少年團教育は世界五十八ヶ國迄およんだ。

世界の少年團は少年團の國際聯盟を通じて兄弟となり親友となりしてゐる。然し少年團はコスモポリタンではない世界の平和を愛しそれを求めて訴へてゐるけれども價值を拂つてまで平和を欲求する如き平和主義ではないと宣言してゐる。

少年團のスローガンは「そなへよ常に」である。勿論世界各國共通なる事は云ふ迄もない。又日常の出來事の失敗成功は「そなへよ常に」の精神の如何によるもので、イギリス少年團の活躍或は上海事變に於ける我國少年團の活動が日常の訓練とスローガンが如何に彼等を動かしただけでわかる。

かくして少年團はその指導精神が示す様に教育團體であり、集まる事をゲームとしてゐる少年團の前途には洋々たるものがある。徒らに緣日における交通整理のみが少年團のすべてでない事を付言してこの稿を閉ぢる。

土に親しめ

○宗教は腐敗したる魂を清むるものである。腐敗したる物質を清むるものは土壤である。萬人宗教に觸れて靈化せざるものなく、萬物土中に入りて善化せざるものなし、然らば、精神と物質との差こそあれ、宗教と農業とは何れも同じ徑路を辿るものであり、等しい力を持つものである。

(留岡幸助)

大道の歌から

大地は一見荒つぽくて、沈黙で、
依態の解らない……………、自然は凡て
一見荒つぽくて、依態の解らないものだ。
失望してはいけない、
我慢しろ……………、
十分彼はれてゐるが、
そこに神聖なものがあるのだ。(ホイットマン)